

流域治水シンポジウムの 開催報告

令和4年3月17日
中国地方整備局岡山河川事務所

「中国地方 流域治水シンポジウム」を開催しました！

- 令和3年11月30日に、「中国地方 流域治水シンポジウム」を岡山市内で開催しました。
- シンポジウムでは、美濃部副局長による開会挨拶に始まり、国土交通本省の朝田河川計画調整室長と中央大学の福岡教授による講演、その後、岡山大学の前野特任教授をコーディネーターとし、国・県・市・民間企業・住民団体・建設業界のパネラーによるパネルディスカッションを行い、流域治水の取組状況、推進方策について議論しました。

概要

日時：令和3年11月30日（火）13時30分～16時30分
 会場：山陽新聞本社さん太ホール（岡山市）
 構成：・話題提供「流域治水の現状と課題」（国交省・朝田室長）
 ・基調講座「最近の豪雨災害を踏まえ流域治水について考える」（中央大学・福岡教授）
 ・パネルディスカッション
 参加者数：86人（岡山三川流域内外から地域住民や行政職員等が参加）
 なお、YouTubeによるライブ配信も実施

開会挨拶、講演等



パネルディスカッションのメンバー

パネルディスカッションの主な意見

- 流域治水は、**国、県、市町村に加え企業や住民の全員がプレイヤー**であり、それぞれの役割を理解し、**協働して、できることに取り組むことが重要**。
- 中国地方における**田んぼダム**の取組や流域治水の取組について、**支援を拡充しながら推進していきたい**。
- 全国に先んじて、用水路の水位低下や雨水流出抑制対策の助成等の浸水対策を**関係者で協働して**推進している。今後は近隣市町村へ取組を水平展開し、**流域全体の治水安全度の向上に繋げたい**。
- 流域治水の取組による効果を定量的に評価し住民に提示すると共に、取組の限界や損失が生じる場合もあることを含めて、**分かり易い周知が必要**。
- 自然災害を経験して、災害対応はマニュアルだけでは困難と感じた。そのため、**取組の過程が大切であり、関係機関が連携した取組を推進したい**。
- 災害時に情報が無いことが大きな不安となり**情報の重要性を感じた**。
- **個々の防災意識の向上**に加え、情報には我が事として捉えるために手紙を書くように「あなたの命を守りたい」という**メッセージ性が必要**。
- 情報をどこから入手して、理解して、行動につなげるか、を**発信側と受信側（住民）が連携して情報を共有し、日ごろから備えることが重要**。

アンケート調査概要

【調査目的】

中国地方における流域治水の取り組みの充実を図るための基礎情報とすることを目的としてアンケート調査を実施した。

【調査対象者】

令和3年11月30日に開催した「中国地方 流域治水シンポジウム」に参加またはYouTube動画を視聴された方

【調査日、期間】

- シンポジウム当日参加者：令和3年11月30日
- 動画視聴者(WEB)：令和3年11月30日～12月31日

【回答数】

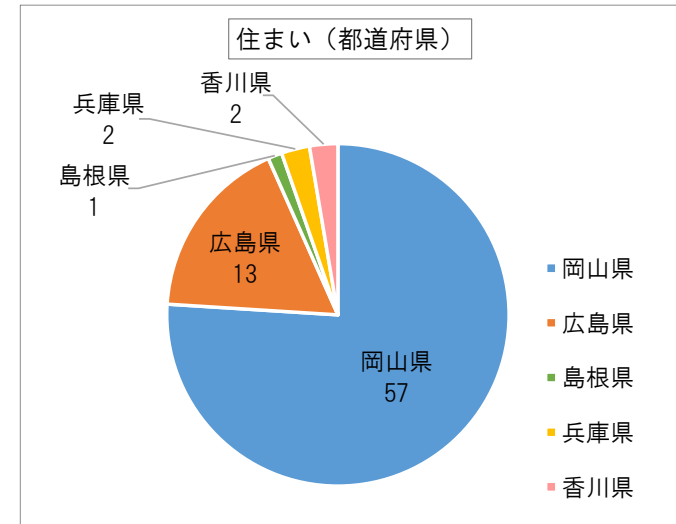
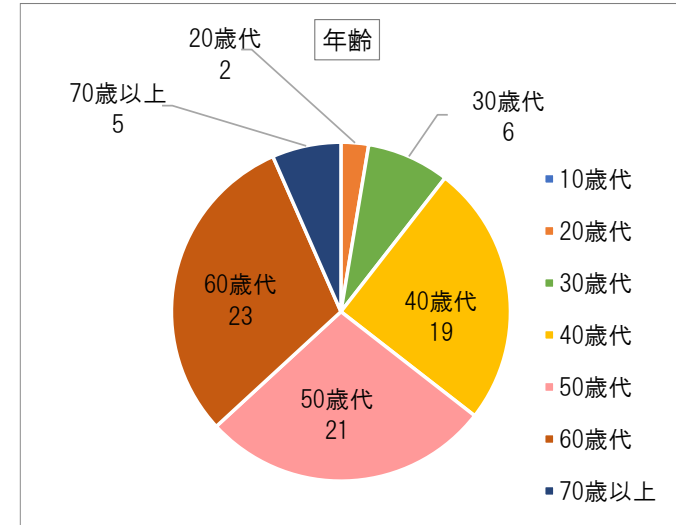
- 76(会場：72、WEB：4)※一部設問に未回答あり

【調査項目】

- 年齢、住まい
- 流域治水の認知度
- 流域治水の取り組み
- 流域治水に対する考え方や意見
- シンポジウムについて

<回答者の属性>

- 年齢は、40歳代から60歳代が大半を占めた。
- 住まいは、岡山県内が大半を占め、次いで広島県やその他近隣の県であった。

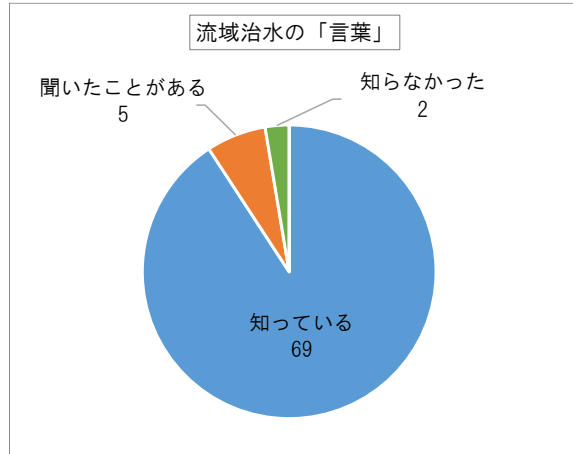


流域治水の認知度

- 『流域治水』について、ウェブサイトやテレビ等を通じて、広く認知されている。
- 『流域治水』の「具体的な取り組み」については、「言葉」、「考え方や目的」に比べ僅かに認知度が低いため、分かり易い表現や説明の仕方を工夫して、認知度を高めていく。

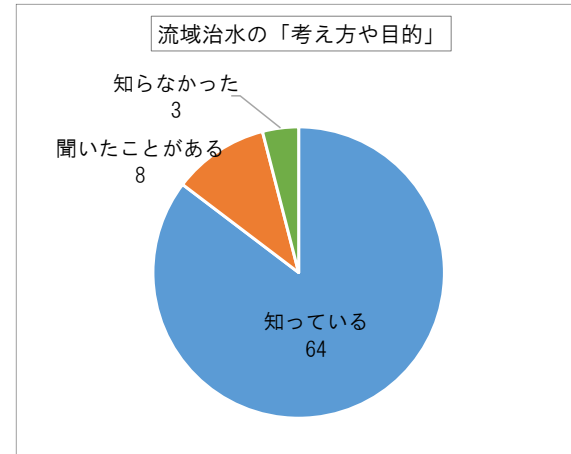
<設問>

- 『流域治水』の「言葉」を知っているか。



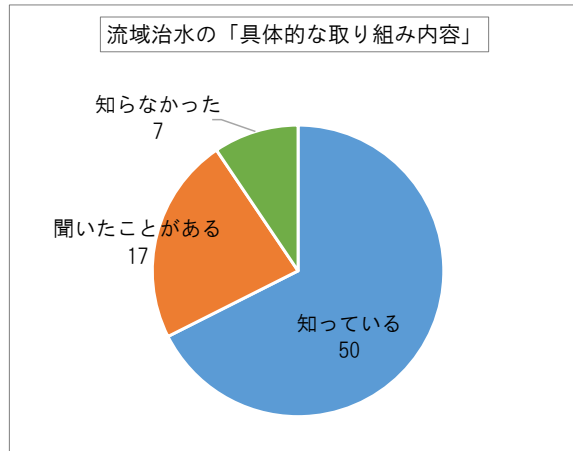
<設問>

- 『流域治水』の「考え方や目的」を知っているか。



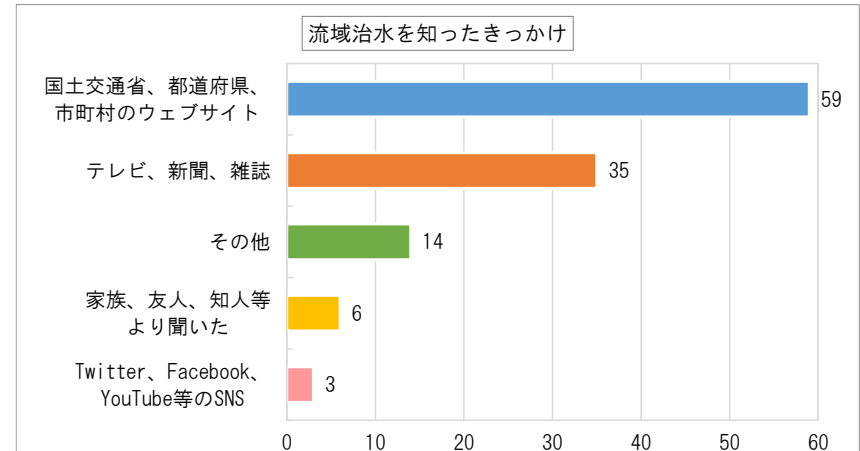
<設問>

- 『流域治水』の「具体的な取り組み」を知っているか。



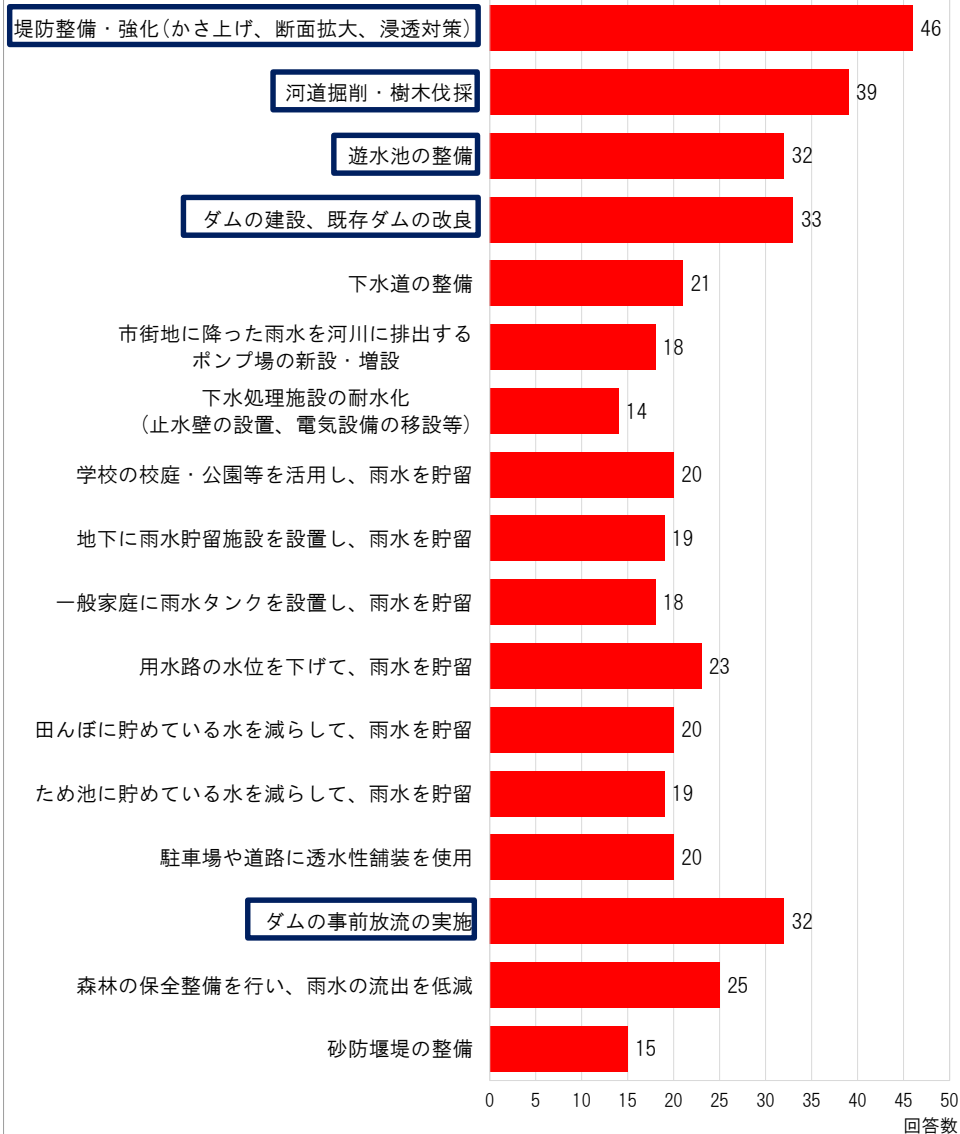
<設問>

- 流域治水について、何を通じて知ったか(知ったきっかけ)。

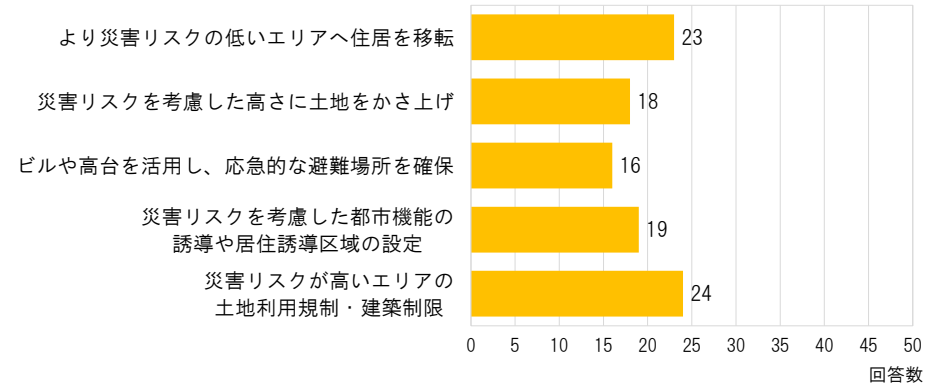


流域治水の取り組み【関心・興味がある取り組み】

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策



被害対象を減少させるための対策



被害の軽減、早期復旧・復興のための対策



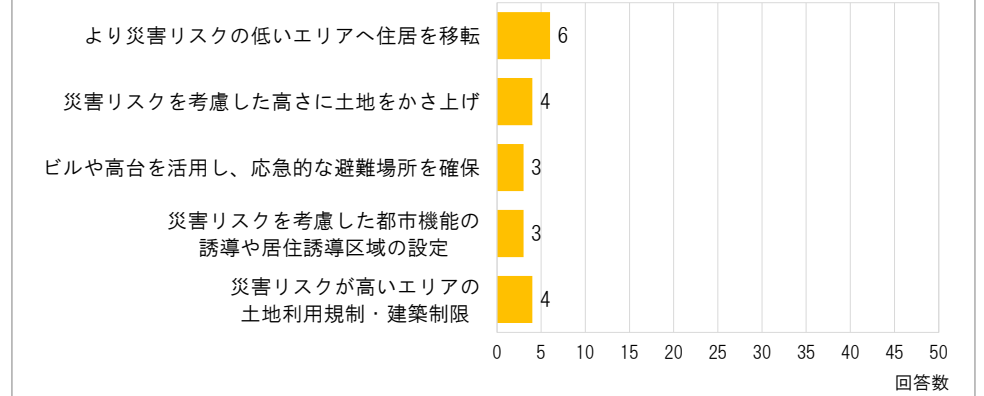
□ 選択肢の中で特に回答数が多かった取組

流域治水の取り組み【既に取り組んでいる・これから取り組んでみたいと思う取り組み】

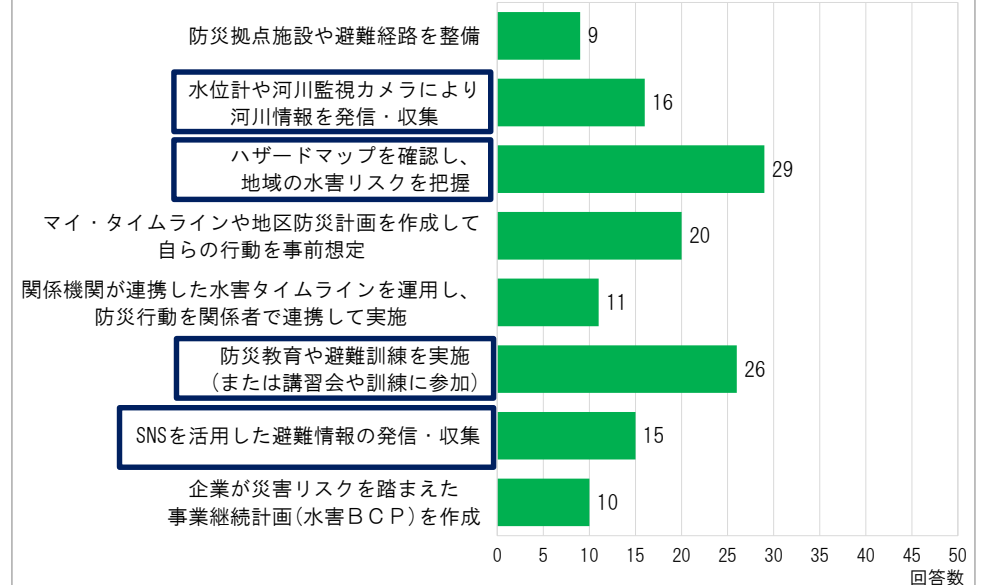
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策



被害対象を減少させるための対策



被害の軽減、早期復旧・復興のための対策



□ 選択肢の中で特に回答数が多かった取組

流域治水に対する考えや意見、要望

【氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策】に関する考えや意見、要望

(アンケート意見)

- 基本的には河川内で治水対策を講じるべき。中州の土砂堆砂・樹林化を放置しないことが最大の課題である。
- ダムの事前放流の推進も必要であるが、ダムだけに頼らない流域治水の推進が必要である。
- ☞ 河川整備計画に基づく計画的かつ着実な河川整備に加え、流域治水の取り組みも合わせて実施する必要がある。

【被害対象を減少させるための対策】に関する考えや意見、要望

(アンケート意見)

- 激甚化する災害に対して、全ての地域を守ることは困難である。そのため、安全な地域への人口や都市機能の集約(コンパクトシティ)を行う共に、効率的な治水対策を実施することが重要であると考えます。
- 土地利用規制については、有効ではあるが実現するのが難しいと考える。また、地域住民の理解が必要となり、そのために住民や土地所有者に対する丁寧な説明が必要である。
- ☞ 災害リスクを考慮したまちづくりを検討するために必要な情報の充実化を図り、地域住民に丁寧に説明する必要がある。
- ☞ まちづくりの検討において、流域治水の観点を取り入れるために地域住民と連携を図る必要がある。

【被害の軽減、早期復旧・復興のための対策】に関する考えや意見、要望

(アンケート意見)

- 地域住民を巻き込んだ取り組みの推進に向けて、国民の一人ひとりに分かり易い情報発信とPRが必要である。
- ☞ 流域治水の取り組み内容や、取組効果についても一般住民の目線で分かり易い情報で発信する必要がある。

その他(考え、意見、要望)

(アンケート意見)

<有効な流域治水対策の推進>

- 想定最大規模以外に、発生頻度の高い降雨に対する対応も重要と考える。
- 流域ごとの特徴を分析・理解して、効果的な取り組みを進めることが重要と考える。
- ハード対策はもちろんのこと、ソフト対策がさらに重要と考える。
- 対策効果について、どのようなケースに対して、どの場所に、どの程度発現するのかを数値で示し、世の中に発信する必要がある。
- 幅広い施策の優先順位についてどのようにコンセンサスを取るのか、が重要と考える。
- 事業のための用地や予算をどう確保していくのかが課題である。

<関係者の連携>

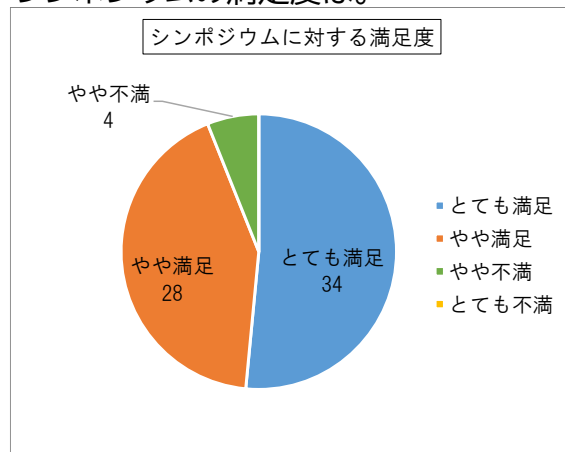
- 国・県・市町村及び企業や住民等の様々な立場の人が協働してやることを念頭に、リスクコミュニケーションも考えながら地域と一体となり取り組むことが大切と考える。
- 各取り組みのマネジメント、取組内容の見える化が必要と考える。
- 河川管理者以外の取り組みに対しては、インセンティブが必要と考える。
- ☞ 水害ハザード情報の充実化を図り、取り組みによる効果を定量的に評価することで、取り組みの促進や優先順位を設定し、計画的に取り組むを実施することが必要である。
- ☞ 関係機関で取り組みの連携を図るために、取組内容を情報共有し、必要となる情報やタイミングを確認し、また取り組みの効果も共有することで、相乗効果を図る必要がある。

シンポジウムに関するご意見

- シンポジウムについて大半の参加者が満足と回答し満足度が高い。
- 今後シンポジウムを実施する場合は、今回と同様ウェブサイト等を通じて広く広報すると共に、今回参加が少なかった20、30歳代の年齢層にも流域治水について分かり易く説明し、我が事として認識してもらうための工夫(講演、ディスカッションの内容やPR方法等)が重要。

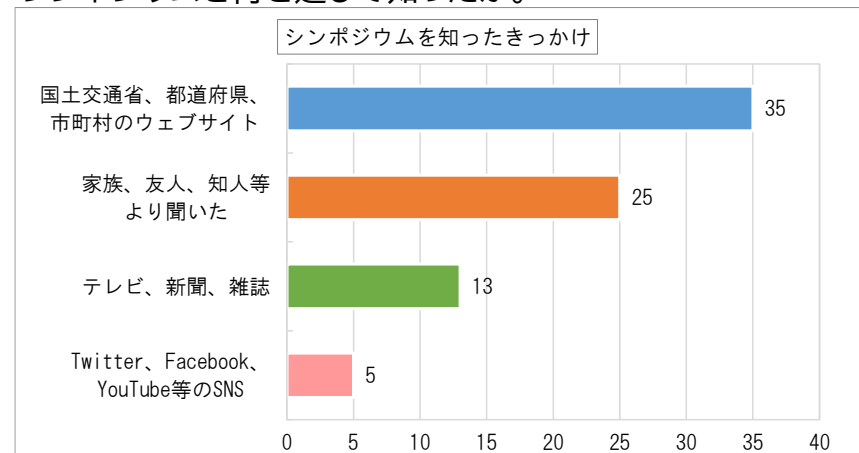
<設問>

- シンポジウムの満足度は。



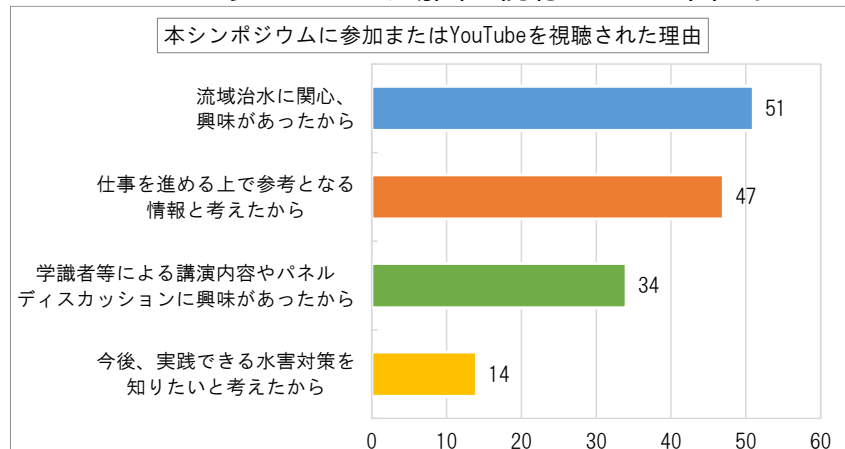
<設問>

- シンポジウムを何を通じて知ったか。



<設問>

- シンポジウムに参加または、動画を視聴された理由は。



<設問>

- その他意見

- 業務の参考になり有意義な時間となった
- シンポジウム全体の時間が短い
- 意見交換の時間をもう少し長く取って欲しい
- 会場から質問ができるの良い 等